

序論)

みなさんは、神様が共におられることを信じられなくなったことがあるでしょうか。今日の箇所は、神様が今も生きて働いてくださっているのかわからなくなって、まるで神様に見捨てられたかのように感じているイスラエルを励ますのことばです。

とはいっても、このみことばが前提としているのはユダ王国が滅び、バビロン捕囚によって捕囚の民となって人々で、それはイザヤの時代から約150年後の話となります。

神様は事が起こる150年前からイスラエル人たちが捕囚の民になることを知っておられ、その上、その捕囚生活中に人々が、神様に対して絶望してしまうことも知っておられたのでした。だからこそ、【主】は事が起こる150年も前に、このようにして神の民を励ます預言を与えてくださっていたのです。

イスラエルがどのような困難を経験し、どのように絶望するのかを知っておられる神様は、私達がどのような苦しみを体験し、どのように絶望するのかも知っておられるお方です。だからこそ、今日ののみことばは、私達に対する励ましの言葉でもあります。

【主】がどのように励ましてくださっているのか見ていきましょう。

★なぜ、神が無関心だと言うのか。

まずは、27節を読みましょう。

40:27 ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ言い張るのか。「私の道は【主】に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。

歴史をたどってみると、ユダ王国がバビロンによって滅ぼされ、そのバビロンに捕囚の民として連れて行かれて時から、そのバビロンを滅ぼしたペルシャの王キュロスによって解放されるまで約70年の時間がありました。

歴史からすると70年というのはあっという間かもしれませんが、その当事者たちにしては70年というのは永遠とも思えるような期間だったのではないのでしょうか。その間、彼らは神様の救いの約束を信じつつも、いっこうに状況が変わらないのを見て、思わず神様に対して「私の道は【主】に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」とつぶやいてしまったのです。

みなさんは、一つの祈り課題を最長で、どれぐらい祈り続けたことがあるでしょうか。祈るということは簡単ではありません。口先で同じ祈りの課題を機械的に口に出すことは簡単かもしれませんが、神様に期待をし続けて、本当に心から願い求め続けるということは、強い忍耐力と精神力が必要になってしまいます。

今のカトリックの修道院は、どうかは知りませんが、昔のカトリックの修道院は、一日の労働の半分を畑仕事などで働き、もう半分を祈りなさい。と指導されていたそうです。そして、仮に働けない場合は、「畑で働いたのと同じぐらい祈りなさい。」と言われていたようです。つまり、祈りは畑仕事と同じぐらい気力や体力が必要なものとみなされていたわけです。実際、本当に心を注ぎだして祈るということはクタクタになります。

みなさんは、クタクタになるぐらい祈ったことがあるでしょうか。そして、その祈りが70年間聞かれなかったとしたらどうでしょうか。この27節の通り、「私の道は【主】に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」と思わず言いたくなると思います。

そこまでいかななくても、私達が真剣に祈っているのにも関わらず、なかなか祈りの応答がないとき、私達は疲れ切ってしまう、【主】に対して希望を抱くことを諦めてしまうのではないのでしょうか。

★永遠、創造、活力、英知の【主】

しかし、そのようにしてなかなか神様からの祈りの応答がなかったとしても、簡単に神様の助けを諦めてしまうのは早計なことと言えます。

なぜならば28節で、神様がこのようなお方だといっているからです。

40:28 あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。【主】は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。

ここには4つの神様の性質が書かれています。

一つは、神様は「永遠の神」であることです。

永遠の神とは、神様のスケールの大きさを示しています。人にとって神様の助けがないように思えたとしても、神様は永遠のスケールの中で救いの計画を実行されているのです。だから、人はその神様の計画を測り切ることができません。

そのため、人間の時間感覚で神様が働いていないと思ったとしても、永遠の神様は、その永遠のスケールの中で、確かに私達を助け出す計画を実行されているのです。

次にここで示されている神様の性質は、神様は「地の果てまで創造した方」・・・つまり「世界の創造者」であるということです。それは、この世界に神様なしで存在している場所の一つもないということです。

イスラエルからバビロンに連れて行かれた人々にとって、そこは偶像が支配する場所であり、神様のご支配から外れたこの世の王が支配している場所に思えたかもしれません。でも、例え、そのような真の神様が礼拝されていない場所であったとしても、そこも神様が創造された世界の一部であり、神様のご支配の中にあるのです。だから、神様のご支配が感じられないような場所であったとしても、そこに神様の働きがないと考えるのは早計であり、短絡的な考え方といえるのだと思います。

みなさんが生きている環境。職場や家庭や学校は、神様の働きを感じられないところかもしれません。でも、神様はその場所をもお造りになったお方であり、そこをも支配されているお方なのです。だから、私達は例え、神様が感じられない場所であったとしても、神様が働いてくださることを信じ続けることが大切です。

創造主なる神様は、神様と無縁と思えるような場所もご自分の支配下においてくださっています。

そして、神様の性質の 3 つ目として、**神様は疲れなお方である**ということです。神様が「疲れることもなく、弱ることもない」お方ということは、神様の御業を感じるができなくても、神様は、ご自分の力が足りなくて休まれているわけではないということです。簡単に言えば、神様は止まっておられないということです。

詩編 121 篇 3 節、4 節にはこのように書かれています。

121:3 主はあなたの足をよろけさせずあなたを守る方はまどろむこともない。

121:4 見よイスラエルを守る方はまどろむこともなく眠ることもない。

例え、神様を感じるができなかったとしても、神様は眠ることなく、私達を守り続けていてくださっているのです。

そして、神様のご性質の 4 つ目は、「**神様は計り知れない英知を持っておられる**」ということです。神様の知恵は、人の知恵にまさっているということです。

みなさんは、博識であったり、頭の回転が早かったりする人と話しをしていて、言っていることがよくわからないということを経験したことはないでしょうか。

自分の知識と相手の知識の量に大きな差があるとき、相手の言っていることがわからなくなることがあります。

例えば、私は、もともとはコンピュータエンジニアですから、コンピュータの専門的のこと。コンピュータがどのように情報を処理しているかなどの、コンピュータの仕組みを私が話したとしても、それを学んでいない人は私の言っていることがちんぷんかんぷんでよくわからないということがあります。

それと同じで神様は、私達にとって計り知れない英知をもっておられるお方なので、その神様の英知によって立てられた計画は、私達には理解できないことがあるのです。神様は愛の神様なのに、なんで今の自分を救ってくださらないのか。神様は平和の神様なのに、なぜ世界に戦争があることを放置されておられるのか。私達はそう言ったことに対して、神様の意図を測り知ることができません。しかし、聖書にはこのような神様のことばがあります。エレミヤ書 29 章 11 節

29:11 わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——【主】のことば——。それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

神様は、私達にわざわいではなく、平安と将来と希望を与える計画をもっておられます。でも、神様の知恵が私達より優れているがゆえに、その神様の意図がわからないことがあるのです。そんな時、私達はどうしたらいいのでしょうか。わからなくても、このお方を信じ続けるのです。

★力を与える【主】

とはいっても、神様が働いてくださっているように思えないとき、人は望みを抱くことに疲れ切ってしまう、神様に見放されたように感じてしまいます。しかし、【主】はそんな人に対して 29 節のように言われています。

40:29 疲れた者には力を与え、精力のない者には勢いを与えられる。

神様はつかれている者に力を与えてくださるお方なのです。だから、私達は靈的につかれてしまった時、自分の力で頑張るのではなく、【主】によって力を与えていただくことが大切なのです。

なぜならば、人は力があつたとしてもいずれ、疲れて果ててしまう者だからです。30 節を読みましょう。

40:30 若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。

若者というのは時に無限のエネルギーがあるように思います。私もまだまだ若いつもりでいますが、それでも力の衰えを感じます。私より年上の方々ならなおさらでしょう。でも、聖書は、若者であったとしても力尽き、倒れてしまうと言っています。実際そうですね。現代は若い人が、精神病になって働けなくなったり、倒れてしまったりすることが珍しくありません。私達は強いと思える人であったとしても、簡単に倒れ、疲れ果ててしまうのです。私達、人間のちからには頑張ろうとしたとしても、限界があるわけです。

だから、私達は自分の意思の力だけで頑張ろうとしたり、踏ん張ろうとしたりしてもいつかは倒れてしまうのです。

世の中には「『できない』は嘘つきのことば」なんていうことばがあります。

みなさんこれどう思いますか？これは、『世の中のことは努力してやれば必ずできるのに、やりたくないと思っているから「できない」なんて言うのだ。だから、「できない」何ていう人は嘘つきだ。』という意味です。みなさん、これは本当のことでしょうか。確かに物事を簡単にあきらめてしまうことは、出来ることをできないことにしてしまうという危険性があります。しかし、聖書は例え若者であったとしても力尽き、倒れしまう、そのような限界が人にはあることを示しています。

私達は限界がある弱い存在なのです。では、どうしたらいいのでしょうか。

★【主】を待ち望め

【主】は 31 節のように言われています。31 節。

40:31 しかし、【主】を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることが出来る。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

聖書は、【主】を待ち望むことこそ、立ち直るための方法だと教えています。

ただ待つだけでなく、待ち望むことが大切なのです。

英語の聖書だと TRUST とか、hope という言葉が使われています。

TRUST というのは信じることですね。Hope というのは希望を持つことです。

神様の御業がみえなくて、疲れて切ってしまう人が回復する方法は、それは、神様が見えなくても、【主】を信じて、【主】に対して希望を持ち続けることなのです。

その時、【主】は神の民に新しい力を与え、その人は鷲のように飛ぶことができます。聖書には色々な種類の鳥が登場します。鳩であったり、カラスであったり、雀

であったり、色々でてきますが、鳩やカラスや雀と、鷺で違うところはなんでしょう？それは飛び方が違います。鷺は鳩や雀と比べると、その大きな翼で滑空しながら飛んでいる時間が多いです。滑空というのは風を翼にあてて、その風の力で滑るように飛び続けることですね。

【主】を待ち望むものは、雀のように自分の力で翼を羽ばたかせて飛ぶのではなく、【主】のちから、【主】の聖霊の風によって滑空して飛びあがっていくわけです。つまり、自分の力で飛ぶのではなく、【主】の力で飛ぶ。それが【主】を待ち望む者の生き方なのです。

当然、【主】の風にのって飛ぶので、その人は走っても衰えず、歩いても疲れません。

わかりますか？ つまり、最初に言った。【主】を信じて祈り続けるという疲れる作業も、【主】の聖霊の働きによって祈るならば、疲れ果てることなく継続することができます。祈りもまた、自分の力で頑張るのではなく、【主】に助けられて祈るといのが本当の祈り方ということです。

時に、自分では祈れない弱さを感じたならば、無理やり言葉を絞り出して祈るのではなく、ただ神様の前に沈黙をし、神様の導きをただ待つ祈りをするのが大切です。また、聖書を読んで神様からの励ましの御言葉を受け取って、その聖書の言葉によって祈っていく。それが疲れ切ることのない祈りのやり方なのです。

これは自分の願いによって祈る祈りから、神様のみことばや、神様の導きによって祈る祈りへと変わることを意味しています。

わかりますか。自分で頑張るということから、神様に導かれて祈る。そのようにするとき、私達は力を受けて、鷺のように翼を広げて上ることができるのです。

みなさん、【主】を待ち望むいのり、ぜひやってみていただきたいと思います。

まとめ)

まとめます。

みなさん、神様を感じれとれない時にも、簡単に【主】の助けがあることを諦めないでください。【主】の導き、聖霊の働きを受けながら、信じ、待ち望み続けてください。

【主】は、永遠のお方であり、創造主なるお方であり、疲れることなく、計り知れない英知を持っておられるお方です。だからこそ、このお方のご計画と御業を計り知ることができません。だから、簡単に決めつけずに、自分がわかっていない所

で【主】が働いて下っていることを信じ、待ち望んでいきましょう。

そのようにするとき、その人は、必ず【主】によって新しく力を得て、いきいきと生きることができるようになります。最後に 31 節をもう一度読みましょう。

40:31 しかし、【主】を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

お祈りします。